様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	京都橘大学
設置者名	学校法人京都橘学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	日本語日本文学科	夜・通信	0	39	12	51	13	
	歴史学科	夜・通信			22	61	13	
	歴史遺産学科	夜・通信			10	49	13	
国際英語学部	国際英語学科	夜・通信		19	24	43	13	
発達教育学部	児童教育学科	夜・通信		28	16	44	13	
現代ビジネス学部	経営学科	夜・通信		34	30	64	13	
	都市環境デザイン学科	夜・通信			34	68	13	
看護学部	看護学科	夜・通信		10	26	36	13	
健康科学部	心理学科	夜・通信		2	28	30	13	
	理学療法学科	夜・通信			38	40	13	
	作業療法学科	夜・通信			36	38	13	
	救急救命学科	夜・通信			28	30	13	
	臨床検査学科	夜・通信			55	57	13	
健康科学部	心理学科通信教育課程	夜・通信	0	0	22	22	13	

（備考）
◆各学科における教育課程の変更年度は下記のとおり。
・発達教育学部：1・2年生は新課程、3・4年生は旧課程

・現代ビジネス学部：1・2年生は新課程、3・4年生は旧課程 ・看護学部：1・2年生は新課程、3・4年生は旧課程 ・健康科学部心理学科：1～3年生は新課程、4年生は旧課程 ・健康科学部理学療法学科・作業療法学科・救急救命学科：1年生は新課程、2年生以上は旧課程

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページにて公表 URL：https://portal2.tachibana-u.ac.jp/syllabus/syllabuskougisearch.do

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	京都橘大学
設置者名	学校法人京都橘学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページ「情報開示」にて学校法人京都橘学園役員情報を掲載
https://www.tachibana-u.ac.jp/about/corporation/outline.html

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	大日本塗料株式会社相談役	2020.4.1～2023.3.31	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	同志社大学名誉教授	2020.4.1～2023.3.31	組織運営体制へのチェック機能
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	京都橘大学
設置者名	学校法人京都橘学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 本学ではシラバスを作成し、本学ウェブサイトにて公表している。 （通学制） ◆授業計画（シラバス）の作成過程 ・毎年度「シラバス作成要領」を作成し、教務委員会にて確認している。 ・教務委員会にて確認された「シラバス作成要領」に基づき、授業ごとに担当教員がシラバスを作成する。 ・作成されたシラバスは、教務部長の下、教務委員会による点検を経て公開される。 ※「シラバス作成要領」は、教職員がログインして利用できるポータルサイトに掲載している。 ※シラバス作成時期が近づくと、詳細なスケジュールを記載した案内を全教員に配布している。 ◆授業計画の作成・公表時期 ・12 月中旬：授業担当教員によるシラバス作成開始 ・1 月上旬：授業担当教員によるシラバス作成期限 ・1 月中旬：教務委員会による点検 ・2 月上旬：本学ウェブサイト上にてシラバス公開 なお、全学部の科目において、同様に取り扱っている。 （通信教育課程） ■授業計画の作成過程 毎年度「シラバス作成要領」を作成し、通信教育課程の重要事項を審議する通信教育課程会議で確認、通信教育課程委員会にて報告し、同文書をシラバス作成依頼の際に添付している。その内容を踏まえ、非常勤講師を含む科目を担当する全教員が作成している。作成されたシラバスは、通信教育課程会議にて点検、校正の上、通学制と同じウェブサイトで公開している。 ■授業計画の作成・公表時期 12 月初旬：作成依頼 翌年 1 月下旬：提出締切 同年 2 月下旬：校正完了 同年 2 月下旬：通信教育課程会議にて確認 同年 3 月初旬：ウェブサイトで公開

授業計画書の公表方法	本学ホームページにて公表 https://portal2.tachibana-u.ac.jp/syllabus/syllabuskougisearch.do

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

（通学制）

◆単位授与又は履修認定の厳格かつ適切な実施状況

本学では、各学生の学修成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与や履修認定を実施するため、アセスメントポリシーを策定して本学ウェブサイトにて公表している。

アセスメントポリシーは、機関（大学）レベル・教育課程（学部・学科）レベル・科目レベルの３段階で、具体的な評価指標を定めている。

また、成績評価の基準を定め、成績評価の妥当性、客観性を担保するとともに、教務委員会等にて定期的に点検を行うことにより、教育内容および教育方法の改善につなげることとしている。

・本学ウェブサイト内アセスメントポリシー公開ページ

https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/policy/assessment.html

（通信教育課程）

評価基準については、広く一般に公開している通信教育課程のサイト上で、誰でも確認することができる。通信教育課程においては、シラバスに示されている評価基準を学修システム(LMS)上に設定し、成績処理を行っている。レポートなどについては、教員が学修システム内で直接入力し、テストについては自動採点により予め決められた評価基準により成績がつけられている。学修システム上で自動的に成績が処理されるため、シラバスに示された評価割合通りに採点される。

■通信教育課程専用サイト内成績評価基準等の公開ページ

https://echool.tachibana-u.ac.jp/about/policy.html

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） （通学制） ◆GPA 等の客観的な指標の具体的な内容 ・GPA を導入している。算出方法は、「(履修登録した科目のうち GPA 算出科目の単位数×当該科目のポイント)の総和」を「履修登録した科目のうち GPA 算出科目の総単位数」で割った数である。 ◆客観的な指標の適切な実施状況 成績評価において、個々の学生の成績がどの位置にあるかを把握することや、修得単位数の水準を知るうえでの客観的な指標として GPA を導入している。GPA は、各学生の履修科目の成績に基づき、あらかじめ設定した算出方法により算出している。 GPA の算出方法や活用方法については、本学ウェブサイトの「履修の手引き」にて公表している。 なお、GPA については全学部において同様に取り扱っている。 （通信教育課程） ■客観的な指標 ＧＰＡ ■算出方法 １）ＧＰＡ算出対象評価 Ｓ(100～90 点)：４ポイント／Ａ(89～80 点)：３ポイント／Ｂ(79～70 点)：２ポイント Ｃ(69～60 点)：１ポイント／Ｄ(59～0 点)：０ポイント ２）算出方法 (Ｓ科目数×４)＋(Ａ科目数×３)＋(Ｂ科目数×２)＋(Ｃ科目数×１)＋(Ｄ科目数×０)／ (Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄの単位数の合計) ■客観的な指標の実施状況 ＧＰＡは、各学生の履修科目の成績に基づき、あらかじめ設定した算出方法により算出し、学生個人の達成度の確認に利用するとともに、履修指導の対象者の抽出、奨学生の選抜などに活用する。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	（通学制） 本学ホームページの「履修の手引き」にて公表 http://cai5.tachibana-u.ac.jp/kyomu/courses/record.html （通信教育課程） 通信教育課程専用サイトで公開 https://echool.tachibana-u.ac.jp/about/policy.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） （通学制） ◆卒業の認定に関する方針の具体的な内容 本学は、教学理念および大学の目的に則り、次のような能力を身につけ、各学科のディプロマポリシー（学位授与方針）を満たした者に学士の学位を授与する。 ①自立した社会人として社会に貢献するための知識や能力、素養を身につけている。 ②他者と適切に交流し、人への配慮ができるような能力を身につけている。 ③自立した社会人として必要とされる基本的な知識や能力を身につけることによって、さまざまな課題に自信を持って取り組み、解決できる力を身につけている。 ◆卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 ・各学部学科等で定められた卒業要件(定められた科目・単位数の修得や卒業論文(研究)の作成)を満たし、ディプロマポリシーに掲げる目標を達成していると認められた場合、卒業を認定し、学位を授与する。 （通信教育課程） ■卒業の認定に関する方針 健康科学部心理学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、幅広い教養と心理学の専門的な理論・技法の修得を通じて、豊かな知識と人間性を基礎に、個人や家庭・学校・企業などの集団の抱える心の問題・課題に対して、その問題解決や成長・発展に貢献することのできる人材を養成することをめざしている。そのために心理学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士(心理学)の学位を授与する。 （１）心理学全般の基礎知識をバランスよく身につけている。 （２）こころとからだを併せ持つ人間に関する事象を、心理学的視点から捉えて、分析し、理解する能力を身につけている。 （３）臨床心理学、社会・産業心理学、発達・教育心理学、行動神経科学のいずれかの分野の専門性の高い理論・知識・研究法を身につけている。 （４）心理学的な視点と研究法により、社会の人々が直面している問題・課題に取り組む能力を身につけている。 （５）自己理解・他者理解にもとづくコミュニケーションを用いて、周囲の人々と協働し、組織や地域の成長・発展に貢献できる能力を身につけている。 ■卒業の認定に関する方針の実施状況 上記のディプロマポリシーをもとに卒業要件が定められ、修得すべき単位が決定されている。それらの条件を満たした場合、卒業と認め、学位を授与する。 卒業判定については、通信教育課程の重要事項を審議する通信教育課程会議、部長会、通信教育課程委員会において確認され、適正な手順により卒業を認定している。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	（通学制） 本学ホームページにて公表 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/policy/policy.html （通信教育課程） 通信教育課程専用サイトで公開 https://echool.tachibana-u.ac.jp/about/policy.html

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	京都橘大学
設置者名	学校法人京都橘学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学ホームページ「情報開示」の経営・財務情報に掲載 https://www.tachibana-u.ac.jp/about/accounts/index.html
収支計算書又は損益計算書	本学ホームページ「情報開示」の経営・財務情報に掲載 https://www.tachibana-u.ac.jp/about/accounts/index.html
財産目録	本学ホームページ「情報開示」の経営・財務情報に掲載 https://www.tachibana-u.ac.jp/about/accounts/index.html
事業報告書	本学ホームページ「情報開示」の経営・財務情報に掲載 https://www.tachibana-u.ac.jp/about/accounts/index.html
監事による監査報告（書）	本学ホームページ「情報開示」の経営・財務情報に掲載 https://www.tachibana-u.ac.jp/about/accounts/index.html

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：事業計画　　対象年度：2020 年度　）
公表方法：本学ホームページ「情報開示」の経営・財務情報に掲載。 https://www.tachibana-u.ac.jp/about/accounts/index.html
中長期計画（名称：Master plan 2022　　対象年度：2015-2022 年度　）
公表方法： 2019 年度から 2026 年度までを対象とする第 2 次マスタープランを法人ホームページで公表している。 https://www.tachibana-u.ac.jp/masterplan/

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：本学ホームページに点検・評価報告書、外部評価結果等を掲載。
https://www.tachibana-u.ac.jp/about/evaluation/evaluation.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：本学ホームページに認証評価結果を掲載。
https://www.tachibana-u.ac.jp/about/evaluation/evaluation.html

また、認証評価機関の大学基準協会ホームページに適合認定済みとして掲載されている。
https://www.juaa.or.jp/search/index.php?e_year=2016&acr=1&search

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　文学部（日本語日本文学科、歴史学科、歴史遺産学科）
教育研究上の目的 （公表方法：本学ホームページにて公表 日本語日本文学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/let/japanese/policy.html 歴史学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/let/history/policy.html 歴史遺産学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/let/heritage/policy.html）
（概要） 文学部は、幅広い教養や専門的知識を身につけ、社会で活躍するための人材を養成する。 文学部日本語日本文学科は、日本語日本文学および書道の各分野において専門的な知識や技術を身につけ、知性と感性を磨き、自らの考えを豊かに表現できる人材を育成することを目的とする。 文学部歴史学科は、歴史学を学ぶことを通して、人類の築き上げた社会の本質を根源から見極める姿勢を養い、科学的な視点にたって様々な課題を論理的に解決することのできる人材を育成することを目的とする。 文学部歴史遺産学科は、歴史遺産を対象とする研究をおこない、その歴史的・文化的意義を解明するとともに、歴史遺産を適切に活用した社会を創造する意欲を身につけた人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：本学ホームページにて公表 日本語日本文学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/let/japanese/policy.html 歴史学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/let/history/policy.html 歴史遺産学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/let/heritage/policy.html ）
（概要） 文学部日本語日本文学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、日本語による表現力を高め、日本文化をよく知ることによって、社会における多様な文化や価値観を大切にし、自ら問題を解決できる人材を養成することをめざしている。そのために日本語日本文学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（文学）の学位を授与する。 ①日本語の特質を理解し、豊かなコミュニケーション能力を身につけている。 ②各時代の文学を読解するための、基礎的な語彙力や表現力を身につけている。 ③作品や文章を通して、人間や社会に関する課題を発見し、考察する力を身につけている。 ④日本文化に関する総合的な理解を深めていくことで、国際化が進行する社会にふさわしい知性やコミュニケーションを身につけている。

⑤書の制作や書学研究を深めることにより、自身の感性を磨き、豊かな創造力と表現力を身につけている。

文学部歴史学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、歴史を深く学び、市民・社会人として必要とされる知識・教養ならびに道徳観や人間性を身につけ、グローバル化した社会で多様な文化、人々と共生し、問題解決能力と判断能力を備えた人材を養成することをめざしている。そのために歴史学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（文学）の学位を授与する。
①歴史に関する知的好奇心を高め、学問を主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
②多彩な学問分野の成果を吸収し、歴史研究に役立てる重要性を理解する能力を身につけている
③史料（資料）等を読むことを通して、ことば（文章）と文化について深く理解し、かつ、必要なデータを蒐集・整理し、理論的に思考する能力を身につけている。
④総合的かつ探求的な学修を通じて、人類の作り上げてきた社会・経済・政治・文化に対する深い関心と理解力を身につけている。
⑤学修ならびに研究の成果を明確に表現する能力を身につけている。

文学部歴史遺産学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、歴史遺産についての知識、技術を身につけ遺産の保全や活用できる人材、社会人として自立できる知識や能力、素養をもち、他者への配慮をおこたらない人材を養成することをめざしている。そのために歴史遺産学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士(文学)の学位を授与する。
①文化遺産を活用できる能力を持つことで社会での文化創造に寄与しようとする意欲を身につけている。
②文化遺産の調査・記録方法、そのプレゼンテーション能力を身につけている。
③文化遺産の取扱や保存管理の知識をもち、研究に高めるための技術と方法を身につけている。
④課題を設定し、資料を集め、観察、分析、考察を行う手順を修得する能力を身につけている。
⑤現代社会に関する基本的な認識と対応能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：本学ホームページにて公表
日本語日本文学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/let/japanese/policy.html
歴史学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/let/history/policy.html
歴史遺産学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/let/heritage/policy.html）

（概要）
学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、文学部日本語日本文学科では、日本語日本文学コースおよび書道コースにおいて、以下の方針で教育課程を編成する。

日本語日本文学コース
①日本語日本文学への理解を深めていくことで豊かなコミュニケーション力やすぐれた社会的人格の獲得を目指す「日本語日本文学領域」、グローバルな視点から日本文化に関する理解を深めていくことで、国際化が進行する社会にふさわしい知性や能力の獲得をめざす「国際日本文化領域」の２つの専門分野の授業科目を配置する。

②狭い専門科目だけに履修が偏らないように基礎的で総合的な科目をまず配置し、学年進行に従って、それぞれの興味に応じ、各分野のより専門的で高度な知識や技術が獲得でき、また学問の幅と奥行きを感じることができるように概説と講義の各科目群を段階的に配置する。
③1・2 回生時に各分野の専門研究に共通する研究方法の基礎を学ぶため、少人数の「研究入門ゼミ」および「基礎演習」を配置する。
④1・2 回生混合のクラス編成で、自ら考え、共に学ぶ力を育てるため、グループ活動を基本にした「言語文化総合演習」を配置する。
⑤3・4 回生時に少人数の演習科目で高度な知識や技術を身につけ、学生生活の集大成として自ら設定したテーマの解明に取り組む「日本語日本文学演習」および「卒業研究」を配置する。
⑥日本文化に関する総合的な学びを社会において十分に活かす実力を獲得するため、今日における京都の伝統文化やそれを土台とするさまざまな産業を理解することができる科目を配置する。
⑦現代社会に関する基本的な認識を養い、各分野の今日的なトピックを中心に授業を進める教養教育科目群（基礎教育科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群）を配置する。

書道コース
①1 回生時に「研究入門ゼミ」をはじめとする基礎力アップのための科目を配置する。
②2 回生時に「漢字古典研究」「かな古典研究」および「中国書道史」「日本書道史」を配置し、幅広く書の魅力を探る。
③3 回生時に実習科目の「書法」と、講義科目の「書論」を開講し、実技・理論の両面から書を深め、卒業研究（卒業制作）につなぐ科目とする。
④4 回生時には、自らの作品を創作する表現力を身につけるための「作品研究」を配置し、4 年間の集大成として「卒業制作」（論文も可）を行う。
⑤2 回生から、狭い専門科目だけに偏らないように多様な「日本語学講義」「古典文学講義」「近現代文学講義」などを選択科目として配置する。
⑥日本文化に関する総合的な学びを社会において十分に活かす実力を獲得するため、今日における京都の伝統文化やそれを土台とするさまざまな産業を理解することができる科目を配置する。
⑦現代社会に関する基本的な認識を養い、各分野の今日的なトピックを中心に授業を進める教養教育科目群（基礎教育科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群）を配置する。

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、文学部歴史学科では、以下の方針で教育課程を編成する。
①幅広い分野に及ぶ「人間の歴史」を学ぶにあたって、明確な目標を定め、大学生としての学びを実現できるよう、2 回生以上を対象に【日本史コース】【世界史コース】の 2 コースを用意する。コース選択に役立てるために、日本史・世界史両分野の教員がリレー講義を行う「歴史学入門講義」を 1 回生時に配置する。
また、歴史学のより専門的な深い学習を提供するために、3 回生以上を対象に【現代史特別専攻】【女性史特別専攻】【文化交流史特別専攻】の 3 つの特別専攻（オプショナルコース）を設定する。
②1 回生時から《基礎教育科目群》《教養教育科目群》《キャリア教育科目群》を配置し、社会人として生きる基礎的な素養を養うとともに、歴史研究を行う上で非常に重要な基礎力を養成する。
③歴史の基本的な研究方法を学び、それに基づく歴史研究を行うため、1 回生時に「研

究入門ゼミ」、2回生時に「基礎ゼミ」、3・4回生時に「演習」といったゼミ形式の科目群を配置し、集大成として4回生時に「卒業研究」を行う。
④専門的研究を支える科目群として、2回生時から「古文書学」「外書研究」などの演習系科目、3回生時に専門分野ごとの「講読」を配置する。
⑤歴史学科の学修の裾野を支える科目として、1回生時に「概説」科目群、2回生時以上に「特講」などの講義系科目群を配置する。

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、文学部歴史遺産学科では、以下の方針で教育課程を編成する。
①人類の所産のうち、考古資料、彫刻、絵画、工芸品、歴史資料などの動産遺産と、建造物、近代化遺産、都市・文化的景観、史跡、埋蔵文化財といった土地に定着した不動産遺産、これら2つの領域の文化遺産情報を対象とした科目を配置する。
②1 回生時に、文化遺産に関する基礎的知識と文化遺産に接する姿勢を幅広く身につけるために「歴史遺産学総合演習」などの科目を配置するとともに、各領域にわたるモノやフィールドごとの観察や鑑賞、調査の仕方、研究史、研究方法の違いを知り、調べたことを発表、報告、文章化するプレゼンテーション能力を身につけるため「研究入門ゼミ」を配置する。
③2回生時に、自ら調査した内容を分析し、まとめる力を身につけるため「歴史遺産学基礎ゼミ」と、実習を通して取扱い方法や保存管理技術、知識を体得する「歴史遺産学実習」を必修科目として配置するとともに、専門研究に必要な技術や方法を学ぶための「考古学研究」「建築遺産研究」「歴史遺産研究」「美術工芸史研究」、遺産の特性に応じた調査方法を学ぶ「歴史遺産調査実習」、文献史料の読解力を修得する「文献史料学」を選択必修科目として配置する。学生は、選択必修科目の履修により、専門領域を2つ以下に絞り込む。
④3回生時から、考古学、美術工芸史、古文書、歴史遺産のいずれか1つの領域を専門とする「考古学コース」「美術工芸史コース」「歴史遺産コース」を置き、学説の分析やその批判、先学を含めてそれらを自らのテーマへ再構築するための「歴史遺産学演習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。
⑤4回生時に、課題を設定し、資料を集め、観察、分析、考察を行う手順を修得するための「歴史遺産学演習Ⅲ・Ⅳ」を配置するとともに、「卒業研究」を行う。
⑥2級考古調査士の資格取得を目的に「文化財行政論」「考古学研究Ⅰ」の必修科目や「保存科学Ⅰ・Ⅱ」といった選択科目などを配置する。
⑦在学中に獲得した力を卒業後、社会に出て十分に活かすことができるように、現代社会に関する基本的な認識を養い、各分野の今日的なトピックを中心に授業を進める教養教育科目群(基礎教育科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群)を配置する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：本学ホームページにて公表
日本語日本文学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/let/japanese/policy.html
歴史学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/let/history/policy.html
歴史遺産学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/let/heritage/policy.html)

（概要）
文学部日本語日本文学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、日本語による表現力を高め、日本文化をよく知ることによって、社会における多様な文化や価値観を大切にし、自ら問題を解決できる人材を養成することをめざしている。この教育目標を達成するために、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求める。
①日本語や日本文学に関心を持ち、学習に対する意欲を持つ者。
②日本の文化を幅広く知り、論理的思考を身につけたいと希望する者。
③日本語日本文学コースを学ぶ上で必要となる、日本語の表現力・読解力に関する基礎的な能力を有する者。書道コースについては、これに加え、古典・古筆へ直接アプローチする真摯な姿勢と基礎的な技法とを有する者。

文学部歴史学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、歴史を深く学び、市民・社会人として必要とされる知識・教養ならびに道徳観や人間性を身につけ、グローバル化した社会で多様な文化、人々と共生し、問題解決能力と判断能力を備えた人材を養成することをめざしている。この教育目標を達成するために、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求める。
①知的好奇心が高く、本などを読むことを通して、積極的に知識・情報の獲得に努めることのできる者。
②歴史につよい関心を持ち、人類が作り上げてきた社会・経済・政治・文化に対する深い理解と、現代社会に生きる人としての豊かな人間性を身につけ、社会に貢献したいと希望する者。
③歴史を学ぶ上で必要となる、国語や外国語、歴史等について基礎的学力を有する者。

文学部歴史遺産学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、歴史遺産についての知識、技術を身につけ遺産の保全や活用できる人材を養成することをめざしている。 この教育目標を達成するために、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求める。
①身近なものについて、つねに関心をもち、入学後に興味のあることについて深く追求できる者。
②ものの成り立ちに関心を持ち、人類が残した社会・文化のことがらの変遷を理解したいと希望する者。
③歴史遺産にまつわるものを理解するうえで必要となる、歴史、文化についての基礎的学力を有する者。

学部等名　国際英語学部（国際英語学科）
教育研究上の目的 （公表方法：本学ホームページにて公表 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/international/english/policy.html）
（概要） 国際英語学部国際英語学科は、国際共通語としての英語を高度に運用する能力および国際感覚を身につけ、社会のグローバル化に対応できる人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：本学ホームページにて公表 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/international/english/policy.html）

（概要）
国際英語学部国際英語学科は、教学理念に則り、国際共通語としての英語を高度に運用する能力および国際感覚を身につけ、社会のグローバル化に対応できる人材を養成することをめざしている。国際英語学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士(国際英語)の学位を授与する。
①グローバル化が進む社会や英語教育の場で活躍するために必要な高度な英語運用能力
②文化の違いを越えて積極的に人間関係を築くことのできる異文化理解力と他者への共感能力
③文化・社会・経済・経営・観光などに関する幅広い知識と教養を基盤としたグローバルコミュニケーション能力
④現代社会に広く関心を持ち、生涯にわたって新しい知識を吸収していく能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：本学ホームページにて公表
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/international/english/policy.html）

（概要）
学位授与に必要とされる能力(ディプロマポリシー)を修得するために、国際英語学部国際英語学科では、以下の方針で教育課程を編成する。

①教育課程の根幹に留学を位置づけ、学生全員が原則として 1 年間(2 回生後期～3 回生前期)留学する。ただし、将来教職を希望する学生には 6 ヵ月(2 回生後期)の留学を用意する。
②留学期間を除くすべてのセメスターに「総合演習科目群」を配置し、アカデミックスキル、留学に必要な知識とスキル、研究力や論文作成力を段階的に身につける。また、学科の学びの集大成として「卒業研究」を配置する。
③留学期間と 4 回生後期を除くセメスターに必修の「英語集中プログラム科目群」を配置する。これにより、留学前までに 4 技能を統合的に身につけ、留学後は身についた英語力を維持向上させる。
④異文化コミュニケーション、英語圏文化に関する基礎および発展的内容を学ぶ「国際言語文化領域科目群」を配置する。
⑤経済、経営、観光に関する基礎および発展的内容を学ぶ「グローバルキャリア領域科目群」を配置する。
⑥グローバル人材となるために不可欠な日本文化や国際社会を理解するための科目を「専門関連科目群」に配置する。
⑦在学中に獲得した力を卒業後、社会に出て十分に活かすことができるように、「教養教育科目群(基礎教育科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群)」を配置する。
⑧進路目標にあわせ、「グローバルキャリア」「国際観光」「英語教育」の 3 つのラーニングコースを設定し、系統的な学びを促す。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：本学ホームページにて公表
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/international/english/policy.html）

（概要）
国際英語学部国際英語学科は、教学理念に則り、国際共通語としての英語を高度に運用する能力および国際感覚を身につけ、社会のグローバル化に対応できる人材を養成することをめざしている。国際英語学科では、この教育目標を達成するために、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求める。
①高い英語運用能力を身につけることに強い意欲を持ち、継続的な努力を惜しまない者
②英語という言語の背景にある文化や社会、考え方を理解し、国際共通語としての英

語を使って、グローバル化する社会に貢献する意欲を持つ者
③英語と国語に関する基礎的学力を有するとともに、日本と外国の文化や社会に関心のある者

学部等名　人間発達学部（児童教育学科、英語コミュニケーション学科） （※2017 年 4 月募集停止）
教育研究上の目的 （公表方法：本学ホームページにて公表　※履修の手引きに掲載 https://www.tachibana-u.ac.jp/student/registrar/courses/index.html）
（概要） 人間発達学部は、コミュニケーション能力の獲得を教育の根幹に据え、多文化の理解と他者への共感の力を養い人間関係の創造に寄与する人材を育成する。 人間発達学部児童教育学科は、小学校教員、幼稚園教員、保育士を養成するとともに、多様化する社会のさまざまな教育・保育サービスに適切に対応できる人材を養成することを目的とする。 人間発達学部英語コミュニケーション学科は、高度な英語運用能力を身につけ、文化の違いを越えて積極的に人間関係を築くコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：本学ホームページにて公表　※履修の手引きに掲載 https://www.tachibana-u.ac.jp/student/registrar/courses/index.html）
（概要） 人間発達学部児童教育学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、幅広い教養、保育と教育に関する専門的知識の習得、そして他者とのパートナーシップを構築する力の涵養を通じ、豊かな知識と人間性を基礎に、専門職として学び続ける力を育て多様化する社会の様々な教育・保育サービスに適切に対応できる人材を養成することをめざしている。 そのために児童教育学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（児童教育学）の学位を授与する。 ①教師・保育士として必要とされる基礎的な知識や考え方を身につけている。 ②子どもが育つ道筋を理解し、子どもに働きかける力を身につけている。 ③人間の尊厳への敬意を払い、相手の気持ちや考えを尊重する態度を身につけている。 ④多様な背景を持つ人々を受け入れ、他者と協働する力を身につけている。 ⑤専門的な知識に基づき自ら問題を発見し、探求する態度を身につけている。 人間発達学部英語コミュニケーション学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、異文化、とりわけ英語圏文化について深い知識と理解をもち、それをもとにした他者への高い共感能力をもつ人材を養成することをめざしている。そのために英語コミュニケーション学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（英語コミュニケーション学）の学位を授与する。 ①高い英語運用能力をもち、グローバルな場で活躍するのに必要な基礎的知識と考え方を身につけている。 ②英語圏の文化についての深い知識と、英語を教える上での幅広い知識を身につけている。

③高い異文化コミュニケーション能力、およびを他者への高い共感能力身につけている。
④異文化理解を通して、文化を異にする他者に自己を論理的に説明する能力を身につけている。
⑤現代社会に広く関心をもち、生涯にわたって新しい知識や見識を吸収していく能力を身につけている

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：本学ホームページにて公表　※履修の手引きに掲載
https://www.tachibana-u.ac.jp/student/registrar/courses/index.html）

（概要）
学位授与に必要とされる能力を修得するために、人間発達学部児童教育学科では、児童教育コースおよび幼児教育コースにおいて、以下の方針で教育課程を編成する。
〈児童教育コース・幼児教育コース共通〉
①自立した社会人としての基礎的な素養を身につけるため、教養教育に関する科目（基礎教育科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群）および専門関連科目を配置する。
②積極的に人と関わる態度を育て、主体的な学習に取り組むために、１回生時に「研究入門ゼミ」を配置する。
〈児童教育コース〉
③教育に関する基本的な知識や考え方を修得するため、1回生時に「現代と教育」「教育原論」「教育心理学」「教職入門」を配置する。
④各教科・領域の指導内容や指導方法を理解し実践する力を養成するため、１～３回生まで段階的に、各教科における「教育法」「概論」および「音楽演習」を配置するとともに、「教育方法論」「生徒・進路指導」「総合学習論」「表現教育論」などの科目を配置する。
⑤子どもを取り巻く社会、地域、家庭、人々との関わりについて専門的な知識と技能を育て、子どもや保護者に共感する態度を身につけるため、２・３回生時に「教育制度論」「教育課程論」「特別支援教育論」「人間発達学入門」などの科目を配置する。
⑥学校でのフィールドワークや教育実習、地域との関わりを通じて、子どもを理解しつつ、授業や学級指導の実践力と反省力を身につけ、教師や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨くことを目的に、１～４回生まで段階的に、各種の「演習（ゼミ）」や「実習」および「卒業研究」を配置する。
⑦教育や人間発達に関する課題を見つけ、その課題を論理的に探求し展開できる能力と、社会人として学び続ける態度を養成するため、「教育演習Ⅰ～Ⅳ」「教職実践演習（初等）」「卒業研究」を３・４回生時に配置する。
〈幼児教育コース〉
③教育・保育に関する基本的な知識や考え方を修得するため、１回生時に「現代と教育」「教育原論」「発達心理学」「教職入門」を配置する。
④保育に関する専門的な知識を修得し、保育を構想・実践し、振り返ることのできる力を育てるため、２・３回生時に、各種の「保育原理」「保育内容演習」「音楽演習」を配置するとともに、「児童家庭福祉」「障害児保育」「保育相談支援」などの科目を配置する。
⑤子どもを取り巻く社会、地域、家庭、人々との関わりについて専門的な知識と技能を育て、子どもと保護者を支援する専門的知識を身につけるため、３回生時に「家庭支援論」「特別支援教育論」「教育課程論」「人間発達学入門」などの科目を配置する。
⑥保育所や幼稚園でのフィールドワークや保育・教育実習、地域との関わりを通じて、子どもと保育者の役割を理解しつつ、保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨くことを目的に、１～４回生まで段階的に、各種の「演習（ゼミ）」や「実習」お

よび「卒業研究」を配置する。
⑦保育や人間発達に関する課題を見つけ、その課題を論理的に探求し展開できる能力と、社会人として学び続ける態度を養成するため、「教育演習Ⅰ～Ⅳ」「教職実践演習（初等）」「卒業研究」を３・４回生時に配置する。

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、人間発達学部英語コミュニケーション学科では、以下の方針で教育課程を編成する。
①学生のキャリア選択のために、英語圏の言語や文化、通訳、翻訳、国際ビジネスなどを学ぶ「英語コミュニケーションコース」と、中学校・高等学校教諭１種免許状（英語）取得をめざし、小学校外国語活動に対応する児童英語も学べる「英語教育コース」の２つのラーニングコースを設定する。
②１回生時に、高校までの勉強の仕方とは異なった態度と研究方法を学び、英語を学ぶ意義を再確認するため「研究入門ゼミ」を配置する。
③１回生から２回生の前期にかけて、段階的・系統的に英語力のレベルを高めていく科目として、「英語」「Reading and VocabularyBuilding」「Listening」「WritingandAcademicPresentation」を配置する。
④２回生時に、３つの多文化理解プログラム（SemesterAbroadProgram／GlobalFieldworkProgram／Community TranslationProgram）を設定し、その準備を行う科目として、１回生後期と２回生後期に「多文化理解プログラム講座Ⅰ・Ⅱ」を配置する。
⑤３・４回生時に、卒業研究を視野に入れつつ、少人数のゼミ形式で、自分の関心のある分野をより専門的に学修する「英語コミュニケーション演習」を配置し、４回生時に「卒業研究」を行う。
⑥３・４回生時に、選択必修科目として、英語コミュニケーション、英語教育の専門的な分野の理論と実践を深く学ぶ科目を配置し、必修科目の「英語コミュニケーション演習」を含め、そのほとんどを英語で実施する。
⑦英語で「何を発信するのか」という問題意識を育てるため、また在学中に獲得した力を卒業後、社会に出て十分に活かすことができるように、教養教育科目群（基礎教育科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群）を配置する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：本学ホームページにて公表
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/policy/index.html）

（概要）
人間発達学部児童教育学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、幅広い教養、保育と教育に関する専門的知識の習得、そして他社とのパートナーシップを構築する力の涵養を通じ、豊かな知識と人間性を基礎に、専門職として学び続ける力を育て多様化する社会の様々な教育・保育サービスに適切に対応できる人材を養成することをめざしている。この教育目標を達成するために、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求める。
①教師・保育士を目指す強い意志を持つ者
②子どもが育つ道筋への関心があり、子ども理解や子ども支援のあり方に関する学習に意欲的に取り組むことのできる者。
③他者を尊重する態度を有するとともに、他者と協働しながら、自己の考え方の確立を目指そうとする者。
④教育や保育を学ぶ上で必要となる、言葉や表現、社会に関する理解について基礎的学力を有する者。

人間発達学部英語コミュニケーション学科は、教学理念および学部・学科の教育研究

上の目的に則り、異文化、とりわけ英語圏文化について深い知識と理解をもち、それをもとにした他者への高い共感能力を持つ人材を養成することをめざしている。この教育目標を達成するために、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求める。
①高い英語運用能力を身につけることに意欲をもつ者。
②英語という言語の背景にある文化や考え方を理解することに意欲をもつ者。
③異文化コミュニケーション能力を身につけ、それを生かしてグローバルな場で活躍したいと希望する者。または、英語教育の現場で活躍することを希望する者。

学部等名　発達教育学部（児童教育学科）
教育研究上の目的 （公表方法：本学ホームページにて公表 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/human/childhood/policy.html）
（概要） 発達教育学部は、人間の発達と教育に関する専門的な知識と洞察力を身につけ、現代の課題に対応する実践的教育力を備えた人材を養成する。 発達教育学部児童教育学科は、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を養成するとともに、多様化する社会のさまざまな教育・保育サービスに対応できる人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：本学ホームページにて公表 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/human/childhood/policy.html）
（概要） 発達教育学部児童教育学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、幅広い教養、保育と教育に関する専門的知識の習得、そして他者とのパートナーシップを構築する力の涵養を通じ、豊かな知識と人間性を基礎に、専門職として学び続ける力を育て多様化する社会の様々な教育・保育サービスに適切に対応できる人材を養成することをめざしている。 この教育目標に基づき、次のような知識や能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士(児童教育学)の学位を授与する。 ①教師・保育士として必要とされる基礎的な知識や考え方 ②子どもが育つ道筋を理解し、子どもに働きかける力 ③人間の尊厳への敬意を払い、相手の気持ちや考えを尊重する態度 ④多様な背景を持つ人々を受け入れ、他者と協働する力 ⑤専門的な知識に基づき自ら問題を発見し、探求する態度
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：本学ホームページにて公表 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/human/childhood/policy.html）
（概要） 学位授与に必要とされる能力を修得するために、発達教育学部児童教育学科では、児童教育コースおよび幼児教育コースにおいて、以下の方針で教育課程を編成する。 児童教育コース・幼児教育コース共通 ①自立した社会人としての基礎的な素養を身につけるため、教養教育に関する科目（基礎教育科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群）および専門関連科目を配置する。

②積極的に人と関わる態度を育て、主体的な学習に取り組むために、1回生時に「研究入門ゼミ」を配置する。

児童教育コース
③教育に関する基本的な知識や考え方を修得するため、1回生時に「現代と教育」「教育原論」「教育心理学」「教職入門」を配置する。
④各教科・領域の指導内容や指導方法を理解し実践する力を養成するため、1～3回生まで段階的に、各教科における「教育法」「概論」および「音楽演習」を配置するとともに、「教育方法論」「生徒・進路指導」「総合的な学習の時間の指導法」「表現教育論」などの科目を配置する。
⑤子どもを取り巻く社会、地域、家庭、人々との関わりについて専門的な知識と技能を育て、子どもや保護者に共感する態度を身につけるため、2・3回生時に「教育制度論」「教育課程論」「特別支援教育論」「児童と発達教育」などの科目を配置する。
⑥学校でのフィールドワークや教育実習、地域との関わりを通じて、子どもを理解しつつ、授業や学級指導の実践力と反省力を身につけ、教師や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨くことを目的に、1～4回生まで段階的に、各種の「演習（ゼミ）」や「実習」および「卒業研究」を配置する。
⑦教育や人間発達に関する課題を見つけ、その課題を論理的に探求し展開できる能力と、社会人として学び続ける態度を養成するため、「教育演習Ⅰ～Ⅳ」「教職実践演習（初等）」「卒業研究」を3・4回生時に配置する。

幼児教育コース
③教育・保育に関する基本的な知識や考え方を修得するため、1 回生時に「現代と教育」「教育原論」「発達心理学」「教職入門」や5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）に関する専門科目を配置する。
④保育に関する専門的な知識を修得し、保育を構想・実践し、振り返ることのできる力を育てるため、2・3回生時に、各種の「保育原理」「保育内容演習」「音楽演習」を配置するとともに、「子ども家庭福祉」「障害児保育」「子育て相談支援」などの科目を配置する。
⑤子どもを取り巻く社会、地域、家庭、人々との関わりについて専門的な知識と技能を育て、子どもと保護者を支援する専門的知識を身につけるため、3回生時に「子ども家庭支援論」「特別支援教育論」「教育課程論」「児童と発達教育」などの科目を配置する。
⑥保育所や幼稚園でのフィールドワークや保育・教育実習、地域との関わりを通じて、子どもと保育者の役割を理解しつつ、保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨くことを目的に、1～4回生まで段階的に、各種の「演習（ゼミ）」や「実習」および「卒業研究」を配置する。
⑦保育や人間発達に関する課題を見つけ、その課題を論理的に探求し展開できる能力と、社会人として学び続ける態度を養成するため、「教育演習Ⅰ～Ⅳ」「教職実践演習（初等）」「卒業研究」を3・4回生時に配置する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：本学ホームページにて公表
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/human/childhood/policy.html）

（概要）
発達教育学部児童教育学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、幅広い教養、保育と教育に関する専門的知識の習得、そして他者とのパートナーシップを構築する力の涵養を通じ、豊かな知識と人間性を基礎に、専門職として学び続ける力を育て多様化する社会の様々な教育・保育サービスに適切に対応できる人材を養成することをめざしている。

この教育目標を達成するために、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求める。 ①教師・保育士を目指す強い意志を持つ者 ②子どもが育つ道筋への関心があり、子ども理解や子ども支援のあり方に関する学習に意欲的に取り組むことのできる者 ③他者を尊重する態度を有するとともに、他者と協働しながら、自己の考え方の確立を目指そうとする者 ④教育や保育を学ぶ上で必要となる、言葉や表現、社会に関する理解について基礎的学力を有する者

学部等名　現代ビジネス学部 （現代マネジメント学科、経営学科、都市環境デザイン学科） （※現代マネジメント学科は、2015 年 4 月募集停止、経営学科および都市環境デザイン学科は 2021 年 4 月募集停止予定）
教育研究上の目的 （公表方法：本学ホームページにて公表　※履修の手引きに掲載 経営学科 http://cai5.tachibana-u.ac.jp/kyomu/courses/faculties/2020/business/management.html 都市環境デザイン学科 http://cai5.tachibana-u.ac.jp/kyomu/courses/faculties/2020/business/urban_environment.html
（概要） 現代ビジネス学部は、これからの社会を展望し、新たな時代のビジネスに必要な人材を養成する。 経営学科は、営利・非営利の組織体の経営に関する専門的な知識と技術を身につけた、これからの産業や社会の発展に貢献できる人材を育成する。 都市環境デザイン学科は、都市の環境と地域アメニティおよび安心安全についての問題意識を持ち、総合的な視点から都市政策や建築設計、公共政策などを行う知識・技術を身につけた人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：本学ホームページ内履修の手引きにて公表 経営学科 http://cai5.tachibana-u.ac.jp/kyomu/courses/faculties/2020/business/management.html 都市環境デザイン学科 http://cai5.tachibana-u.ac.jp/kyomu/courses/faculties/2020/business/urban_environment.html
（概要） 経営学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、幅広い教養と経営学の専門的な知見の修得を通じ、豊かな知識と人間性を基礎に、社会や組織が直面する課題について合理的にかつ責任をもって対応することのできる人材を養成することをめざしている。経営学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（経営学）の学位を授与する。 ①経営学・経済学・会計学を中心に社会科学の基礎的な知識と考え方 ②グローバルなレベルから地域に密着したレベルに至るまで社会、経済、組織に関する幅広い知識

③専門的な知識に裏づけられた論理的な思考力によって、社会や組織が直面する諸課題に取り組む能力
④周囲の人々と協力し、目的を達成するためのコミュニケーション力やリーダーシップ力
⑤社会に関して常に関心を持ち、生涯にわたって新しい知識や見識を吸収していく能力

都市環境デザイン学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、地域社会の観光・文化的な価値を発掘し、都市や身の回りの環境をデザインする公共的な人材を養成することをめざしている。そのために都市環境デザイン学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（都市環境デザイン学）の学位を授与する。
①建築学、観光学、公共政策学を中心とした諸科学の基礎的な知識と考え方を身につけている。
②グローバルな環境から地域・近隣社会・住まいに至るまでの政策・ビジネス・デザインに関する幅広い知識を身につけている。
③都市の課題を発見し政策化する能力や身近な環境である住まいを設計デザインする能力を身につけている。
④周囲の人々と協力し、目的を達成するためのコミュニケーション力やリーダーシップ力を身につけている。
⑤社会に関して常に関心を持ち、生涯にわたって新しい知識や見識を吸収する能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：本学ホームページにて公表
経営学科
http://cai5.tachibana-u.ac.jp/kyomu/courses/faculties/2020/business/management.html
都市環境デザイン学科
http://cai5.tachibana-u.ac.jp/kyomu/courses/faculties/2020/business/urban_environment.html）

（概要）
学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、経営学科では、以下の方針で教育課程を編成する。
①学科の学修を円滑に進め、また自立した社会人としての基礎的な素養を身につけるため、教養教育に関する科目（基礎教育科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群）および専門関連科目を配置する。日本語や外国語の運用能力に加え、とくに論理的思考法と政治・経済・社会に対する広い知識に力点を置く。
②経営学科で必要とされる能力を養成するために共通して身につけるべき知識・スキルを共通科目として配置し、その上で学生各自の興味や関心、将来の進路を展望した6つの学びのコース（ラーニングコース）を設定する。学生は「企業経営コース」「情報ビジネスコース」「金融コース」「公共経営コース」「医療経営コース」「グローバルビジネスコース」のうち1つを選択し、系統的に学習を進める。ただし、1つのコース科目群を学びながらも、必要に応じて他コースの科目を柔軟に履修することを可能とする。
③1回生前期に、必修の専門基礎科目「経営学基礎論」「経済学基礎論」を配置し、専門領域における学力的基礎の向上を図る。1回生後期には、各ラーニングコースに対応した業界の基礎知識や業界地図などを学ぶ入門科目（「情報ビジネス入門」「金融入門」「公共経営入門」「医療経営入門」「グローバルビジネス入門」）を配置する。
④自立した社会人として仕事に従事する上で不可欠となる、論理的に考え、他者にわ

かるように伝え、議論を通じて考えを深めていく力を養成するため、1 回生から 4 回生まで学びの段階に応じて「基礎演習」「専門基礎演習」「専門演習」「卒業研究」を必修科目として配置する。
⑤実際の仕事を見学・体験する機会として「インターンシップ準備講座」「インターンシップ Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」や「海外臨地演習」を配置するとともに、現場で働く企業人の生の声を聴く企業提携講座を積極的に取り入れる。
学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、現代ビジネス学部都市環境デザイン学科では、以下の方針で教育課程を編成する。
①学生それぞれがめざす進路や学びたい内容を体系的に学べるように、「建築・インテリアコース」「観光ビジネスコース」「公共政策コース」という 3 つのラーニングコースを設定する。
②建築・インテリアコースは、まち全体の景観や歴史・文化を視点としたユニバーサルデザインなど、広い視点から建築・インテリアに関する知識と技術を学ぶため、「インテリアデザイン論」「建築計画Ⅰ・Ⅱ」「CAD 演習Ⅰ・Ⅱ」「都市計画論」などを配置し、一級建築士・二級建築士の受験資格とインテリアプランナーの登録資格の取得をめざす教育課程を編成する。
③観光ビジネスコースは、文化・観光などのさまざまな地域資源を発見しながら、地域の個性を引き出し、観光地を開発したり、訪れたい都市をデザインしたりするノウハウを学ぶため、観光ビジネスに関する幅広い知識を修得する「観光ビジネス論」「観光文化論」「観光資源論Ⅰ・Ⅱ」「まちづくり論」「観光政策論」「観光法規」「観光経営論」などを配置するとともに、フィールドワークを通じて実践力を養う「観光情報演習Ⅰ・Ⅱ」「観光ビジネス実務演習Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。
④公共政策コースは、地方自治体や NPO など営利を目的としない組織、あるいはソーシャルでグローカルなビジネス経営を支える公共政策・都市政策についての基本的な考え方を学ぶため、「公共政策論」「自治体経営論」「非営利組織論」「政策過程論」「政策評価論」などの基礎的科目を配置する。
⑤入学時には 4 年間の学びのロードマップを提示するとともに、1 回生前期に、3 つのラーニングコースに対応した入門科目（「建築・インテリア入門」「観光学入門」「公共政策入門」）を配置する。
⑥大学での学びの方法を修得し、文献講読とフィールドワークを通じて理論と実態の関係性を考察しつつ、学生自らの関心に従って研究を進める力を身につけるため、各回生において段階的に「基礎演習」「専門演習」「卒業研究」を配置する。
⑦在学中に獲得した力を卒業後、社会に出て十分に活かすことができるように、現代社会に関する基本的な認識を養い、各分野の今日的なトピックを中心に授業を進める教養教育科目群(基礎教育科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群)を配置する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：本学ホームページにて公表
経営学科
http://www.tachibana-u.ac.jp/about/disclosure/pdf/admission_policy_f2015.pdf
都市環境デザイン学科
http://www.tachibana-
u.ac.jp/about/disclosure/pdf/admission_policy_f2015.pdf）

（概要）
現代ビジネス学部経営学科は、幅広い教養と経営学の専門的な知見の修得を通じ、豊かな知識と人間性を基礎に社会や組織が直面する課題について、合理的にかつ責任をもって対応することのできる人材を養成することをめざしている。この教育目標を達成するために、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求める。
①日本と世界の経済や社会に関心を持ち、営利・非営利を問わず、組織体の経営、およびその社会的な役割に関する学修に意欲的に取り組むことのできる者。

②将来、一般企業やグローバル企業、IT 企業、銀行・証券・保険等の金融機関、一般行政や警察・消防等の公共団体、病院等の医療機関などで即戦力として活躍し、社会に貢献したいと希望する者。
③経営学や経済学をはじめとする社会科学を学ぶ上で必要となる、言葉や表現、社会に関する理解について基礎的学力を有する者。

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、地域社会の観光・文化的な価値を発掘し、都市や身の回りの環境をデザインする公共的な人材を養成することをめざしている。この教育目標を達成するために、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求める。
①都市の環境と地域アメニティに強い関心を持ち、総合的な視点から都市政策や建築設計、公共政策に関する学修に意欲的に取り組むことのできる者。
②将来、都市開発・住宅関連企業、旅行代理店や観光ビジネス関連企業、地域文化 NPO 団体や地方自治体などで活躍し、社会に貢献したいと希望する者。
③建築学、観光学、公共政策学を中心とした諸科学を学ぶ上で必要となる、言葉や表現、社会に関する理解について基礎的学力を有する者。

学部等名　看護学部（看護学科）
教育研究上の目的 （公表方法：本学ホームページにて公表 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/nursing/nurse/policy.html）
（概要） 看護学部は、生命に対して深い畏敬の念を抱き、看護の実践と創造を通して社会に貢献できる人材を養成する。 看護学部看護学科は、豊かな人間性とコミュニケーション能力を備え、俯瞰力と深い倫理観をもった看護専門職者を養成する。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：本学ホームページにて公表 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/nursing/nurse/policy.html）
（概要） 看護学部看護学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、めまぐるしく変化する社会にあって、どのような環境や状況においても看護専門職としての責務を自覚し、「人によりそう看護」を創造し実践できる人材を養成する。この教育目標に基づき、看護学科では、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士(看護学)の学位を授与する。 ①創造的な発想、多角的な視点を持ち、新しい看護を生み出し社会に発信できる力 ②あらゆる環境において、歴史的・社会的・文化的に多様な背景を持った、生活を営む人々について考えられる力 ③自己理解と他者理解を深め、人々との良好な関係とネットワークを築くことができる力 ④自然との関係の中で人をとらえ、生命機能のメカニズムや生命の尊さを考えることができる力
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：本学ホームページにて公表 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/nursing/nurse/policy.html）

（概要）
看護学部看護学科は、ディプロマポリシーとして掲げる４つの能力を身につけるため、資格取得とリベラルアーツを有機的に関連させ、看護学の視点に立った保健師・助産師・看護師の３職種の基盤となる教育を展開する。そのカリキュラムは、「人によりそう看護」を基盤に、それぞれに教育目標を明示した、講義・演習・実習を組み合わせた９つの授業科目群で編成する。

各教育目標に対応した授業科目は、以下のとおりである。
①看護学を学ぶための主体的な姿勢や基礎的な能力を養うために、「キャリア開発演習」「英語」「論理的思考」「教養入門」および教養教育科目群を配置する。また、これらの科目群は、教学理念を具現化するための教育目標を達成する中心的な科目群ともなっている。
②様々な環境で多様な生活を営む人々を理解するための基礎的な能力を養うために、「災害看護学」「国際看護学」「プライマリヘルスケア」「地域課題研究」を配置する。
③ライフサイクルの視点を通して、人々を理解し、他者との関係性を築く能力を養うために、「家族看護学」「対人ネットワーク論」「ライフサイクル論」および実習を通して学ぶ「生涯健やか看護学実習 Ⅱ-1（デイケア）」を配置する。
④ライフサイクルを基盤に生命科学の視点から人を理解する能力を養うために、「フィジカルアセスメント」「フィジカルアセスメント演習」「ライフサイクル疾病論」を配置する。
⑤看護を創造し、社会に発信するための基礎的な能力を養うために、「看護創造論」「キャリア開発演習 Ⅴ」「情報科学」「統計学基礎論」を配置する。
⑥多様な背景や価値観をもつ人々が生活する中で生じる課題に向き合う（対応する）能力を養うために、「看護管理学」「看護倫理」「哲学概論」「倫理学概論」「道徳教育の理論と方法」を配置する。
⑦地域で暮らす人々の健康を支える看護を実践する能力を養うために、「プライマリヘスルケア演習」「生涯健やか看護学」「生涯健やか看護学演習」「生涯健やか看護学実習」「生涯健やか事業構想論」を配置する。
⑧医療ニーズの高い人人に対して看護を実践する能力を養うために、「健康回復看護学」「ヘルスクライシス疾病論」「健康回復看護学演習」「健康回復看護学実習」「助産診断学」「助産技術学」を配置する。
⑨人によりそう看護を創造・実践し、社会に貢献できる能力を養うために、「看護学原論」「看護教育学」「エンドオブライフケア論」「キャリア開発演習 Ⅵ」「総合看護学実習」「助産学実習」「生涯健やか事業展開実習」を配置する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：本学ホームページにて公表
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/nursing/nurse/policy.html）

（概要）
看護学部看護学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、豊かな人間性と生命への畏敬の念をもち、人類愛と異文化理解の視点から看護を創造的に実践し、もって社会に貢献できる人材を養成することをめざしている。この教育目標を達成するために、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求める。
①保健医療福祉分野に関心をもち、看護学に関する学習に意欲的に取り組むことができる者
②将来、保健医療福祉などの現場で看護実践家として活躍し、社会貢献する意思のある
者
③看護学を学ぶ上で必要な対人関係能力および基礎学力を有する者

学部等名　健康科学部（心理学科、理学療法学科、作業療法学科、救急救命学科、臨床検査学科）
教育研究上の目的 （公表方法：本学ホームページおよび通信教育課程専用サイトにて公表 心理学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/psych/policy.html 心理学科通信教育課程専用サイト https://echool.tachibana-u.ac.jp/about/policy.html 理学療法学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/pt/policy.html 作業療法学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/ot/policy.html 救急救命学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/elg/policy.html 臨床検査学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/mts/policy.html）
（概要） 健康科学部は、心理、医療の各分野の専門的知識や技術を習得し、幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、新たな課題に対応できる問題解決能力を備えた人材を養成する。 心理学科は、心理学の知識やカウンセリングのスキルなどを修得し、心の問題に適切に対応のできる専門的な人材の養成をめざす。 理学療法学科は、理学療法に関する幅広いニーズに応えるため、確かな知識と技術を修得させるとともに、高度なコミュニケーション能力を有する理学療法士を育成する。 作業療法学科は、身体や精神、発達などに障害を伴うクライアントを対象に、あらゆる作業を通して心身機能の回復を図り、クライアントの望む生活を支援するための知識と技能を修得し、地域社会に貢献する作業療法士を養成することを目的とする。 救急救命学科は、救急救命の専門知識および実践力を身につけ、医療と地域社会の課題解決に貢献できる質の高い救急救命士を育成することを目的とする。 臨床検査学科は、科学への探究心を常に持ち、高度に進歩し続ける医療を支えることのできる臨床検査の専門的な知識と技術を身につけ、チーム医療に貢献する臨床検査技師を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：本学ホームページおよび通信教育課程専用サイトにて公表 心理学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/psych/policy.html 心理学科通信教育課程専用サイト https://echool.tachibana-u.ac.jp/about/policy.html 理学療法学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/pt/policy.html 作業療法学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/ot/policy.html 救急救命学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/elg/policy.html

臨床検査学科 https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/mts/policy.html)
（概要） 健康科学部心理学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、幅広い教養と心理学の専門的な理論・技法の修得を通じて、豊かな知識と人間性を基礎に、個人や家庭・学校・企業などの集団の抱える心の問題・課題に対して、その問題解決や成長・発展に貢献することのできる人材を養成することをめざしている。そのために心理学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士(心理学)の学位を授与する。 ①心理学全般の基礎知識をバランスよく身につけている。 ②こころとからだを併せ持つ人間に関する事象を、心理学的視点から捉えて、分析し、理解する能力を身につけている。 ③臨床心理学、社会・産業心理学、発達・教育心理学、行動神経科学のいずれかの分野の専門性の高い理論・知識・研究法を身につけている。 ④心理学的な視点と研究法により、社会の人々が直面している問題・課題に取り組む能力を身につけている。 ⑤自己理解・他者理解にもとづくコミュニケーションを用いて、周囲の人々と協働し、組織や地域の成長・発展に貢献できる能力を身につけている。 健康科学部理学療法学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、「こころとからだの両面から真に人の役に立てる理学療法を創造できる人」を育成することを目指している。そのために理学療法学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士(理学療法学)の学位を授与する。 ①主体的に学習する姿勢と幅広く豊かな教養を身につけている。 ②理学療法士として真摯に他者に接する態度を身につけている。 ③理学療法の歴史の中で培われた基本的な知識と技術を身につけている。 ④心理的側面にもアプローチできる知識と技術の基礎を身につけている。 ⑤常に探求心を持ち、表出した問題や課題を解決できる能力を身につけている。 健康科学部作業療法学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、次のような知識・能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（作業療法学）の学位を授与する。 ①幅広い教養と能動的に学習する姿勢 ②作業療法を行う上で基礎となる医学および作業の知識 ③評価から計画、実施まで作業療法のプロセスを理解し実践する技能 ④クライアントに関わる他の職種に敬意を払い、チーム・アプローチを実践する態度 ⑤疑問に対して科学的手法を用いて検証する技能 ⑥地域課題に気づき、それを解決する手段や資源を活用する問題解決能力 救急救命学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、幅広い教養と救急救命の専門的な知見と技術の修得を通じ、医療と地域社会が抱える課題について、豊かな知識と人間性を基礎に、柔軟かつ責任を持って対応することのできる人材を育成することをめざしている。そのために救急救命学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士(救急救命学)の学位を授与する。 ①救急救命を中心とした医学に関する総合的な知識および救急救命学に関する技能 ②救急救命士として必要とされる総合的な観察力、コミュニケーション力およびリーダーシップ

③論理的思考と科学的手法を用いて、ものごとを検証し、問題解決できる能力
④生涯にわたって自ら学び続けるために必要な幅広い教養と探求心

健康科学部臨床検査学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、次のような知識・能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（臨床検査学）の学位を授与する。
①臨床検査技師に必要な専門的な知識および技術
②チーム医療に積極的に参画できる幅広い教養や倫理観、高いコミュニケーション能力
③医療の高度化に対応し、生涯にわたって探究心を持ち、自ら研鑽できる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：本学ホームページおよび通信教育課程専用サイトにて公表
心理学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/psych/policy.html
心理学科通信教育課程専用サイト
https://echool.tachibana-u.ac.jp/about/policy.html
理学療法学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/pt/policy.html
作業療法学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/ot/policy.html
救急救命学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/elg/policy.html
臨床検査学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/mts/policy.html）

（概要）
学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、健康科学部心理学科では、以下の方針で教育課程を編成する。
①心理学科では、バランスよく心理学を学ぶために、専門分野に「共通領域」「行動神経科学領域」「臨床心理学領域」「社会・産業心理学領域」「発達・教育心理学領域」「医療と心理領域」の 6 領域を設定する。学生は、必修科目を履修することにより、すべての領域の入門的内容を修めることができる。学年進行とともに、各自の興味関心のある分野の学びを深めることができるよう、各領域により専門性の高い選択科目を用意する。
これらは、コース制ではなく、各学生が学ぶ目的にあわせて、どの領域の科目も自由に選択して履修できる。（ただし、履修条件のある科目に注意が必要）
②「共通領域」では、心理学の基礎と考えられる概論の講義科目と、心理学研究法に関する科目を配置する。1～2 回生でこれらを履修・修得することが、後のより専門性の高い学習の礎となる。また、この領域には、今後の学業や卒業後の職場・家庭にも必要と考えられるコミュニケーション能力を養成するため、1 回生時に「自己表現研究Ⅰ・Ⅱ」を配置する。
③「行動神経科学領域」では、人の心の成り立ちを科学的に解明するための理論や技術を学ぶ。知覚や認知、記憶といった心的活動が、脳のどのようなメカニズムによって実現されているかを探求するための科目を配置する。
④「臨床心理学領域」では、人の心の有り様や人々への支援について、臨床心理学のさまざまな理論に学ぶことと並行して、体験的学習を通して「臨床の知」を学べるよう、講義、演習および実習を配置する。将来、医療・福祉・教育などの現場の援助職を希望する学生に適した学びの領域である。
⑤「社会・産業心理学領域」には、社会心理学と産業心理学の理論的学習を基礎として、実際の社会活動・企業活動に活用可能な高度なスキルを修得できる科目を配置す

る。将来、企業での活躍を希望する学生に適した科目を多く用意する。
⑥「発達・教育心理学領域」では、基礎理論の講義によって、他領域の学びにも必要な人間の発達の道すじを学ぶ。さらに専門的な、教育・発達支援の科目も配置する。
⑦「医療と心理領域」は、臨床心理学の発展系の領域である。心理学と、医学・哲学・文化・芸術・理学療法学等との交流による新しい視点からのユニークな科目を配置する。
⑧卒業研究では②～⑦の領域から学生が最も興味ある分野のテーマを設定して、3 回生前期から 4 回生後期の間に、4 年間の学びの集大成として、卒業論文を作成する。卒業研究は、心理学の高度な専門的知識・技法を修得し、学びを自己の人生に役立つものとする最適の課題である。

健康科学部理学療法学科のカリキュラムは、幅広い教養の修得を基盤とし、理学療法士養成校として資格取得に必要な基本的な科目を 1 回生からバランスよく配置している。また、早い段階から自身がめざす理学療法士像を明確にし、3 回生からはより専門的な理学療法を学習できるコース別科目群が設定されている。さらに、医学系科目に心理学領域の科目を有機的に関連させ、からだとこころの両面から「真に人の役に立てる理学療法」を創造できる人材の育成を目標に置いたカリキュラム構成となっている。
①主体的に学習する姿勢と幅広く豊かな教養を身につけるため、人文科学、社会科学、自然科学などの幅広い分野の科目を開講する。
②理学療法士として真摯に他者に接する態度を身につけるため、「臨床基礎実習」「検査・測定実習」「臨床評価実習」「総合臨床実習」を各回生において設置する。
③理学療法士の基本的な知識と技術を身につけるため、解剖、運動学などの基礎科目と理学療法演習科目をバランスよく配置する。また、「理学療法総合演習」を 3・4 回生に開講することで、臨床実習で深化・統合させてきた知識・技術の定着を図る。
④心理的側面にもアプローチできる知識と技術の基礎を身につけるため、心理学科と連携した科目を開講する。
⑤常に探究心を持ち、表出した問題や課題を解決できる能力を身につけるため、より専門的な理学療法を学習し、問題解決能力を育成するためのコース別科目群（ヘルスプロモーションコース、スポーツ・運動器障害コース、脳・神経障害コース）を 3 回生以降に設置する。

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、健康科学部作業療法学科では、以下の方針で教育課程を編成する。
①幅広く豊かな教養と視野を身につけるため、人文科学、社会科学、自然科学などの幅広い分野の科目を開講する。
②身体だけでなく、心理面からも科学的にアプローチできる能力を身につけるため、学部共通科目として「医療と心理」領域を開講する。
③将来、作業療法士として活躍することを早期に自覚し大学での学びの動機づけを行うため、初年次に「キャリア教育科目群」を配置する。
④作業療法士に必要となる基本的な知識と技術を身につけるため、専門基礎分野に「人体の構造と機能および心身の発達」「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」の科目群、ならびに作業の知識と応用技術を身につけるため、「作業学」「作業学演習」を配置する。
⑤作業療法士に必要となる専門的な知識と技術を身につけるために、専門分野に「基礎作業療法学」「作業療法評価学」「作業治療学」「地域作業療法学」の科目群を配置する。
⑥作業療法士としての実践的な技術を段階的に修得するとともに、作業療法士となるための自覚を早期に促すため、4 年間を通じて「臨床実習」を配置する。

⑦身につけた知識や技術の深化・統合を図り、自ら設定した課題に対して科学的手法を用いて検証する力を身につけるため、4回生時に「卒業研究」を配置する。

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、健康科学部救急救命学科では、以下の方針で教育課程を編成する。
①幅広く豊かな教養と視野を身につけるため、人文科学、社会科学、自然科学などの多岐にわたる科目を配置する。
②身体だけでなく、心理面からも科学的にアプローチできる能力を身につけるため、学部共通科目として「医療と心理」領域を配置する。
③生涯にわたって探究心を持って学び続ける能力と姿勢を身につけるため、スタディスキル、アカデミックスキル、社会人・医療人として必要な論理的思考力について、4年間を通じて段階的に養成する演習科目および「卒業研究」「課題研究」を配置する。
④基礎医学や公衆衛生の知識を身につけるため、専門分野に基礎医学領域を置く。
⑤救急救命学に関する基礎的な理論と技能を学ぶ目的で、専門分野に救急医学領域を置き、内科・外科系科目を段階的に配置する。
⑥救急救命学の知識をより具体的な問題と関連づけ、幅広い視野で救急救命について考えられるよう、専門分野に学生の関心で選択できる専門関連科目を配置する。
⑦救急救命士として不可欠なコミュニケーション力およびリーダーシップを身につけ、救急救命士としての技能と実践力を養うために、各回生に「救急救命実習」を配置する。また、病院や消防機関での臨地実習を配置し、医療現場での実践力を修得する。
⑧救急救命士になるために必要な知識を身につける「救急救命キャリア開発演習」等を配置する。

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、健康科学部臨床検査学科では、以下の方針で教育課程を編成する。
①幅広く豊かな教養と視野を身につけるため、人文科学、社会科学、自然科学などの幅広い分野の科目を配置する。
②身体だけでなく、心理面からも科学的にアプローチできる能力を身につけるため、学部共通科目として「医療と心理」領域を配置する。
③生涯にわたって探究心を持って学び続ける能力と姿勢を身につけるため、スタディスキル、アカデミックスキル、医療人として必要な能力、研究能力について、4年間を通じて段階的に養成する総合演習(ゼミ)を配置する。また、４年次配置の「臨床検査総合演習」において、臨地実習で深化・統合してきた知識・技術の定着を図る。
④臨床検査技師に必要な基本的な知識と技術を身につけるため、専門基礎分野として、人体の構造と機能、生化学、病理学および医学検査などに関する基礎科目を配置する。
⑤臨床検査技師に必要な専門的な知識と技術を身につけるため、専門分野として「形態検査学」「生物化学分析検査学」「病因・生体防御検査学」「生理機能検査学」などの科目群を配置する。
⑥卒業後にキャリアアップを図ることができるように、臨床検査技師関連の認定資格で求められる高度な専門領域について高度な専門知識に触れる領域別演習を４年次前期に配置する。
⑦臨床検査技師としての基本的な実践技術および施設における検査部門の運営などを学ぶため、3年次後期に「臨地実習」を配置する。
⑧細胞検査士資格認定試験受験資格を取得するため、講義と実習からなる「細胞検査士関連科目群」を配置する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：本学ホームページおよび通信教育課程専用サイトにて公表
心理学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/psych/policy.html

心理学科通信教育課程専用サイト
https://echool.tachibana-u.ac.jp/about/policy.html
理学療法学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/pt/policy.html
作業療法学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/ot/policy.html
救急救命学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/elg/policy.html
臨床検査学科
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/health_science/mts/policy.html)

（概要）
健康科学部心理学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、幅広い教養と心理学の専門的な理論・技法の修得を通じて、豊かな知識と人間性を基礎に、個人や家庭・学校・企業などの集団の抱える心の問題・課題に対して、その問題解決や成長・発展に貢献することのできる人材を養成することをめざしている。この教育目標を達成するために、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求める。
①人間の心の特徴、変化や成長、課題、病理と援助法等についての学修に誠実に取り組むことのできる者。
②将来、医療・福祉・教育等の場での心の専門家として、あるいは企業・公官庁において消費者行動・組織行動に関する専門的な職業人として活躍することを希望する者。
③心理学を学ぶ上で必要となる、言語理解と言語表現、論理的思考について基礎的学力を有する者。

健康科学部理学療法学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、「こころとからだの両面から真に人の役に立てる理学療法を創造できる人」を養成することを目指している。この教育目標を達成するために、次のような態度や資質・能力を備えた入学者を求める。
①人のこころとからだに関心を持ち、人体の構造や機能、ならびに疾病や障害の成り立ち、その回復を促す理学療法に関する学修に意欲的に取り組むことのできる者。
②将来、病院等の医療機関や介護保険施設・福祉関連施設、行政機関などで理学療法士として活躍し、社会に貢献したいと希望する者。
③基礎医学や理学療法学を学び、臨床実習を行う上で必要となる、コミュニケーション能力や物理・生物に関する理解について基礎的学力を有する者。

大学共通の方針のもと、作業療法学科においては、カリキュラムポリシーに沿った学びを行い、ディプロマポリシーに掲げる知識・能力を修得するのに必要となる、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求める。
①人のこころとからだに関心があるとともに、人体の構造や機能、ならびに疾病や障害の成り立ち、その回復や適応を促す作業療法の学修に意欲的に取り組むことのできる者
②将来、病院等の医療機関や介護保険施設・福祉関連施設、行政機関、企業、大学等の研究機関などで作業療法士として活躍し、社会に貢献したいと希望する者
③基礎医学や作業療法学を学び、臨床実習を行う上で必要となる、基本的なコミュニケーション能力および高等学校で学習する基礎的学力を有する者

救急救命学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、幅広い教養と救急救命の専門的な知見と技術の修得を通じ、医療と地域社会が抱える課題について、豊かな知識と人間性を基礎に、柔軟かつ責任を持って対応することのできる人材を養成することをめざしている。この教育目標を達成するために高等学校等の学習と

生活のなかで、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求めている。
①人のいのちを守り、社会に貢献したいという強い信念を持ち続けることのできる者。
②将来、救急救命士の資格を取得し、消防機関や行政・警察等の公務員、病院等の地域医療機関などで活躍したいと希望する者。
③救急救命士として必要な知識と技術を学ぶ上で必要となる、言葉や表現、社会に関する基礎的学力を有する者。

大学共通の方針のもと、臨床検査学科においては、カリキュラムポリシーに沿った学びを行い、ディプロマポリシーに掲げる知識・能力を修得するのに必要となる、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求める。
①人のこころとからだに関心があるとともに、人に対する優しい心を持って、臨床検査に関する学習に意欲的に取り組むことのできる者
②将来、総合病院などの医療機関をはじめ、検査企業、医療機器メーカー、製薬会社などで、また研究者として、臨床検査に関する知識と技術を活かし、社会に貢献したいと希望する者
③基礎医学や臨床医学、臨床検査学を学び、臨地実習を行う上で必要となる、基本的なコミュニケーション能力および高等学校で学習する関連分野の基礎的学力を有する者

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページに学部・研究科・附置機関の組織図を掲載している。
https://www.tachibana-u.ac.jp/about/outline/organization_chart.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	3人	－					3人
文学部	－	18人	3人	0人	1人	0人	22人
国際英語学部	－	8人	1人	2人	6人	0人	17人
人間発達学部※	－	0人	0人	0人	0人	0人	0人
発達教育学部	－	12人	4人	1人	3人	0人	20人
現代ビジネス学部	－	14人	8人	4人	4人	0人	30人
看護学部	－	8人	12人	5人	4人	10人	39人
健康科学部（心理学科通信教育課程除く）	－	30人	13人	7人	16人	0人	66人
健康科学部（心理学科通信教育課程）	－	2人	2人	0人	3人	0人	7人
その他	－	0人	0人	0人	0人	0人	0人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	405人（内通信教育課程の教員80人）	405人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：公表方法：研究業績プロに登録し、本学ホームページの教員プロフィールに連動させている。 ■本学ホームページ「情報開示」 https://www.tachibana-u.ac.jp/about/disclosure/index.html ■教員プロフィール https://kenkyu.tachibana-u.ac.jp/ktuhp/KgApp

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

年間一回の全学FD学習会に加え、学部学科単位での学習会を年一回以上、公開授業及び検討会の実施を義務付けている。

※人間発達学部は2017年度募集停止し、国際英語学部、発達教育学部に改組したため、発令上教員数は「０」としている。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員(a)	入学者数(b)	b/a	収容定員(c)	在学生数(d)	d/c	編入学定員	編入学者数
文学部	240人	240人	100.0%	930人	956人	102.8%	0人	0人
国際英語学部	90人	86人	95.6%	360人	351人	97.5%	0人	0人
人間発達学部（※1）	-人	-人	%	0人	9人	-%	0人	0人
発達教育学部	140人	140人	100.0%	560人	572人	102.1%	0人	0人
現代ビジネス学部	330人	327人	99.1%	1,300人	1,333人	102.5%	0人	0人
看護学部	95人	101人	106.3%	380人	407人	107.1%	0人	0人

健康科学部（心理学科通信教育課程除く）	326 人	327 人	100.3%	1,168 人	1,160 人	99.3%	0 人	0 人
合計（※2）	1,221 人	1,221 人	100.0%	4,698 人	4,788 人	101.9%	0 人	0 人
健康科学部（心理学科通信教育課程）	180 人	152 人	84.4%	1,080 人	1,123 人	104.0%	180 人	291 人
合計（※3）	1,401 人	1,373 人	98.0%	5,778 人	5,911 人	102.3%	180 人	291 人

（備考）
※1：2017 年 4 月募集停止
※2：通信教育課程除く合計値
※3：通信教育課程含む合計値

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
文学部	229 人（100%）	7 人（3.1%）	200 人（87.3%）	22 人（9.6%）
国際英語学部（※1）	−人（−%）	−人（−%）	−人（−%）	−人（−%）
人間発達学部	222 人（100%）	5 人（2.3%）	207 人（93.2%）	10 人（4.5%）
発達教育学部（※1）	−人（−%）	−人（−%）	−人（−%）	−人（−%）
現代ビジネス学部	291 人（100%）	7 人（2.4%）	276 人（94.8%）	8 人（2.7%）
看護学部	99 人（100%）	4 人（4.0%）	95 人（96.0%）	0 人（0%）
健康科学部（※2）	194 人（100%）	6 人（3.1%）	172 人（88.7%）	16 人（8.2%）
合計	1035 人（100%）	29 人（2.8%）	950 人（91.8%）	56 人（5.4%）

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

（進学先）
京都府立大学大学院、名古屋工業大学大学院、京都教育大学大学院、京都橘大学大学院　他

（就職先）
株式会社ワコール、大和ハウス工業株式会社、株式会社京都銀行、株式会社コーセー、日本郵便株式会社他

（備考）
※1：2017 年 4 月開設
※2：健康科学部心理学科通信教育課程は除く。なお、同課程卒業者数は 154 名

c.修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	260 人 (100%)	215 人 (82.7%)	19 人 (7.3%)	22 人 (8.5%)	4 人 (1.5%)
国際英語学部（※）	－人 (－%)	－人 (－%)	－人 (－%)	－人 (－%)	－人 (－%)
人間発達学部	229 人 (100%)	210 人 (91.7%)	9 人 (3.9%)	8 人 (3.5%)	2 人 (0.9%)
発達教育学部（※）	－人 (－%)	－人 (－%)	－人 (－%)	－人 (－%)	－人 (－%)
現代ビジネス学部	304 人 (100%)	274 人 (90.1%)	21 人 (6.9%)	8 人 (2.6%)	1 人 (0.3%)
看護学部	112 人 (100%)	84 人 (75.0%)	16 人 (14.3%)	11 人 (9.8%)	1 人 (0.9%)
健康科学部（心理学科通信教育課程除く）	221 人 (100%)	189 人 (85.5%)	16 人 (7.2%)	16 人 (7.2%)	0 人 (0.0%)
健康科学部心理学科通信教育課程	60 人 (100%)	18 人 (30.0%)	21 人 (35.0%)	13 人 (21.7%)	8 人 (13.3%)
合計	1,186 人 (100%)	990 人 (83.5%)	102 人 (8.6%)	78 人 (6.6%)	16 人 (1.3%)

（備考）
◆その他は、除籍者(8 名)。
◆転籍者については下記のとおり。
・文学部：３名の転出、２名の転入
・人間発達学部：１名の転入
・現代ビジネス学部：８名の転入
・看護学部：５名の転出
・健康科学部：４名の転出、１名の転入
心理学科１名の通学課程から通信教育課程への転課程
ただし、上記のほか文学部において、学部内での転学科が１名発生しているが、学部の人数に変更なし。
※：2017 年 4 月開設

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

【通学制】
（授業計画の作成・公表に係る取組の概要）
本学ではシラバスを作成し、本学ウェブサイトにて公表している。

◆授業計画(シラバス)の作成過程
・毎年度「シラバス作成要領」を作成し、教務委員会にて確認している。
・教務委員会にて確認された「シラバス作成要領」に基づき、授業ごとに担当教員がシラバスを作成する。
・作成されたシラバスは、教務部長の下、教務委員会による点検を経て公開される。
※「シラバス作成要領」は、教職員がログインして利用できるポータルサイトに掲載している。

※シラバス作成時期が近づくと、詳細なスケジュールを記載した案内を全教員に配布している。

◆授業計画の作成・公表時期
・12 月中旬：授業担当教員によるシラバス作成開始
・1 月上旬：授業担当教員によるシラバス作成期限
・1 月中旬：教務委員会による点検
・2 月上旬：本学ウェブサイト上にてシラバス公開

なお、全学部の科目において、同様に取り扱っている。

【通信教育課程】
■授業科目、授業の方法・内容
定められたカリキュラムにしたがって科目が開講され、そのために必要となるシラバスを作成・公開している。シラバスには、授業方法や到達目標、授業計画、成績評価方法など学生が受講にあたって重要となる情報を記載している。シラバス作成にあたっては、毎年度「シラバス作成要領」を作成し、通信教育課程の重要事項を審議する通信教育課程会議で確認、通信教育課程委員会にて報告し、同文書をシラバス作成依頼の際に添付している。その内容を踏まえ、非常勤講師を含む科目を担当する全教員が作成している。作成されたシラバスは、通信教育課程会議にて点検、校正の上、通学制と同じウェブサイトで公開している。
通信教育課程においては、対面授業であるスクーリングのほか、自宅等で学修できるテキスト授業、ｅラーニングを利用したメディア授業にて開講している。

■年間の授業計画
年間の学事計画については、前年度に作成し、通信教育課程の重要事項を審議する通信教育課程会議、部長会、通信教育課程委員会にて確認の上、公開している。公開は、受講登録開始前に誰でも閲覧できる通信教育課程専用サイト上で行っている。加えて学生には年度初めに印刷したものを郵送により配付し、学習計画に役立てられるようにしている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
【通学制】
（学修の成果に係る評価の基準に関すること）
◆単位授与又は履修認定の厳格かつ適切な実施状況
本学では、各学生の学修成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与や履修認定を実施するため、アセスメントポリシーを策定して本学ウェブサイトにて公表している。
アセスメントポリシーは、機関（大学）レベル・教育課程（学部・学科）レベル・科目レベルの 3 段階で、具体的な評価指標を定めている。
また、成績評価の基準を定め、成績評価の妥当性、客観性を担保するとともに、教務委員会等にて定期的に点検を行うことにより、教育内容および教育方法の改善につなげることとしている。

・本学ウェブサイト内アセスメントポリシー公開ページ
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/policy/assessment.html

（卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること）
◆卒業の認定に関する方針の適切な実施状況
・各学部学科等で定められた卒業要件(定められた科目・単位数の修得や卒業論文(研究)の作成)を満たし、ディプロマポリシーに掲げる目標を達成していると認められた場合、卒業を認定し、学位を授与する。

◆卒業の認定に関する方針の具体的な内容
京都橘大学は、教学理念および大学の目的に則り、次のような能力を身につけ、各学科のディプロマポリシー（学位授与方針）を満たした者に学士の学位を授与する。
①自立した社会人として社会に貢献するための知識や能力、素養を身につけている。
②他者と適切に交流し、人への配慮ができるような能力を身につけている。
③自立した社会人として必要とされる基本的な知識や能力を身につけることによって、さまざまな課題に自信を持って取り組み、解決できる力を身につけている。

大学としてのディプロマポリシー
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/policy/policy.html
各学部学科のディプロマポリシー
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/index.html

※履修単位の登録上限について、2020 年度入学生の 1 学年時の登録上限数を記載した。（人間発達学部については 2016 年度入学生の 1 学年時の登録上限数を記載。）

【通信教育課程】
■学修の成果に係る評価
通信教育課程においては、シラバスに示されている評価基準を学修システム(LMS)上に設定し、成績処理を行っている。レポートなどについては、教員が学修システム内で直接入力し、テストについては自動採点により予め決められた評価基準により成績がつけられている。学修システム上で自動的に成績が処理されるため、シラバスに示された評価割合通りに採点される。

■卒業の認定基準
下記のディプロマポリシーに則り、卒業の認定を実施している。

健康科学部心理学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、幅広い教養と心理学の専門的な理論・技法の修得を通じて、豊かな知識と人間性を基礎に、個人や家庭・学校・企業などの集団の抱える心の問題・課題に対して、その問題解決や成長・発展に貢献することのできる人材を養成することをめざしている。そのために心理学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士(心理学)の学位を授与する。
（１）心理学全般の基礎知識をバランスよく身につけている。
（２）こころとからだを併せ持つ人間に関する事象を、心理学的視点から捉えて、分析し、理解する能力を身につけている。
（３）臨床心理学、社会・産業心理学、発達・教育心理学、行動神経科学のいずれかの分野の専門性の高い理論・知識・研究法を身につけている。
（４）心理学的な視点と研究法により、社会の人々が直面している問題・課題に取り組む能力を身につけている。
（５）自己理解・他者理解にもとづくコミュニケーションを用いて、周囲の人々と協働し、組織や地域の成長・発展に貢献できる能力を身につけている。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
文学部	日本語日本文学科	125 単位	有・無	49 単位
	歴史学科	125 単位	有・無	49 単位
	歴史遺産学科	125 単位	有・無	49 単位
国際英語学部	国際英語学科	124 単位	有・無	40 単位
人間発達学部	英語コミュニケーション学科	125 単位	有・無	49 単位
	児童教育学科	125 単位	有・無	51 単位
発達教育学部	児童教育学科	125 単位	有・無	49 単位
現代ビジネス学部	経営学科	124 単位	有・無	48 単位
	都市環境デザイン学科	124 単位	有・無	48 単位
看護学部	看護学科	124 単位	有・無	48 単位
健康科学部	心理学科	124 単位	有・無	48 単位
	理学療法学科	124 単位	有・無	48 単位
	作業療法学科	124 単位	有・無	48 単位
	救急救命学科	124 単位	有・無	48 単位
	臨床検査学科	124 単位	有・無	48 単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法： 【通学制】 公表方法：本学ホームページに掲載の「履修の手引き」にて公表している。 http://cai5.tachibana-u.ac.jp/kyomu/courses/record.html 【通信教育課程】 通信教育課程専用サイト上で公表 https://echool.tachibana-u.ac.jp/about/policy.html		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページ「キャンパスマップ」に掲載。
https://www.tachibana-u.ac.jp/about/campus/campus.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること
2017 年度以降入学生
１年次

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	日本語日本文学科	944,000 円	200,000 円	50,000 円	その他は教育充実費 50,000 円
	歴史学科				
	歴史遺産学科	944,000 円	200,000 円	70,000 円	その他は教育充実費 70,000 円
国際英語学部	国際英語学科	959,000 円	200,000 円	50,000 円	その他は教育充実費 50,000 円
発達教育学部	児童教育学科	1,007,000 円	200,000 円	119,000 円	その他は教育充実費 69,000 円および実験実習料 50,000 円
現代ビジネス学部	経営学科	870,000 円	200,000 円	50,000 円	その他は教育充実費 50,000 円
	都市環境デザイン学科	870,000 円	200,000 円	100,000 円	その他は教育充実費 50,000 円および実験実習料 50,000 円
看護学部	看護学科	1,200,000 円	250,000 円	280,000 円	その他は教育充実費 30,000 円および実験実習料 250,000 円
健康科学部	心理学科	944,000 円	200,000 円	70,000 円	その他は教育充実費 70,000 円
	理学療法学科	1,200,000 円	250,000 円	280,000 円	その他は教育充実費 30,000 円および実験実習料 250,000 円
	作業療法学科				
	臨床検査学科				
	救急救命学科	944,000 円	200,000 円	220,000 円	その他は教育充実費 70,000 円および実験実習料 150,000 円
	心理学科通信教育課程	280,000 円	30,000 円	0 円	

２年次以降

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	日本語日本文学科	944,000 円	0 円	250,000 円	その他は教育充実費 250,000 円
	歴史学科				
	歴史遺産学科	944,000 円	0 円	270,000 円	その他は教育充実費 270,000 円
国際英語学部	国際英語学科	959,000 円	0 円	250,000 円	その他は教育充実費 250,000 円
発達教育学部	児童教育学科	1,007,000 円	0 円	319,000 円	その他は教育充実費 269,000 円および実験実習料 50,000 円
現代ビジネス学部	経営学科	870,000 円	0 円	250,000 円	その他は教育充実費 250,000 円
	都市環境デザイン学科	870,000 円	0 円	300,000 円	その他は教育充実費 250,000 円および実験実習料 50,000 円
看護学部	看護学科	1,200,000 円	0 円	530,000 円	その他は教育充実費 280,000 円および実験実習料 250,000 円

健康科学部	心理学科	944,000 円	0 円	270,000 円	その他は教育充実費 270,000 円
	理学療法学科	1,200,000 円	0 円	530,000 円	その他は教育充実費 280,000 円および実験実習料 250,000 円
	作業療法学科				
	臨床検査学科				
	救急救命学科	944,000 円	0 円	420,000 円	その他は教育充実費 270,000 円および実験実習料 150,000 円
	心理学科通信教育課程	280,000 円	0 円	0 円	

2015 年度入学生および 2016 年度入学生

１年次

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	日本語日本文学科	944,000 円	200,000 円	50,000 円	その他は教育充実費 50,000 円
	歴史学科				
	歴史遺産学科	944,000 円	200,000 円	70,000 円	その他は教育充実費 70,000 円
人間発達学部	英語コミュニケーション学科	959,000 円	200,000 円	50,000 円	その他は教育充実費 50,000 円
	児童教育学科	1,007,000 円	200,000 円	119,000 円	その他は教育充実費 69,000 円および実験実習料 50,000 円
現代ビジネス学部	経営学科	944,000 円	200,000 円	70,000 円	その他は教育充実費 70,000 円
	都市環境デザイン学科 都市デザイン学系	944,000 円	200,000 円	120,000 円	その他は教育充実費 70,000 円および実験実習料 50,000 円
	都市環境デザイン学科 救急救命学系	944,000 円	200,000 円	220,000 円	その他は教育充実費 70,000 円および実験実習料 150,000 円
看護学部	看護学科	1,200,000 円	250,000 円	280,000 円	その他は教育充実費 30,000 円および実験実習料 250,000 円
健康科学部	心理学科	944,000 円	200,000 円	70,000 円	その他は教育充実費 70,000 円
	理学療法学科	1,200,000 円	250,000 円	280,000 円	その他は教育充実費 30,000 円および実験実習料 250,000 円
	救急救命学科	944,000 円	200,000 円	220,000 円	その他は教育充実費 70,000 円および実験実習料 150,000 円
	心理学科通信教育課程	280,000 円	30,000 円	0 円	

２年次以降

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	日本語日本文学科	944,000 円	0 円	250,000 円	その他は教育充実費 250,000 円
	歴史学科				
	歴史遺産学科	944,000 円	0 円	270,000 円	その他は教育充実費 270,000 円
人間発達学部	英語コミュニケーション学科	959,000 円	0 円	250,000 円	その他は教育充実費 250,000 円
	児童教育学科	1,007,000 円	0 円	319,000 円	その他は教育充実費 269,000 円および実験実習料 50,000 円
現代ビジネス学部	経営学科	944,000 円	0 円	270,000 円	その他は教育充実費 270,000 円
	都市環境デザイン学科 都市デザイン学系	944,000 円	0 円	320,000 円	その他は教育充実費 270,000 円および実験実習料 50,000 円
	都市環境デザイン学科 救急救命学系	944,000 円	0 円	420,000 円	その他は教育充実費 270,000 円および実験実習料 150,000 円
看護学部	看護学科	1,200,000 円	0 円	530,000 円	その他は教育充実費 280,000 円および実験実習料 250,000 円
健康科学部	心理学科	944,000 円	0 円	270,000 円	その他は教育充実費 270,000 円
	理学療法学科	1,200,000 円	0 円	530,000 円	その他は教育充実費 280,000 円および実験実習料 250,000 円
	救急救命学科	944,000 円	0 円	420,000 円	その他は教育充実費 270,000 円および実験実習料 150,000 円
	心理学科通信教育課程	280,000 円	0 円	0 円	

2014 年度以前入学生

２年次以降

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	日本語日本文学科	834,000 円	0 円	250,000 円	その他は教育充実費 250,000 円
	歴史学科				
	歴史遺産学科	834,000 円	0 円	270,000 円	その他は教育充実費 270,000 円
人間発達学部	英語コミュニケーション学科	849,000 円	0 円	250,000 円	その他は教育充実費 250,000 円
	児童教育学科	894,000 円	0 円	320,000 円	その他は教育充実費 270,000 円および実験実習料 50,000 円
現代ビジネス学部	現代マネジメント学科現代マネジメ	834,000 円	0 円	270,000 円	その他は教育充実費 270,000 円

	ントコース 経営学系				
	現代マネジメント学科救急救命学系	834,000 円	0 円	420,000 円	その他は教育充実費 270,000 円および実験実習料 150,000 円
	都市環境デザイン学科	834,000 円	0 円	320,000 円	その他は教育充実費 270,000 円および実験実習料 50,000 円
看護学部	看護学科	1,100,000 円	0 円	550,000 円	その他は教育充実費 300,000 円および実験実習料 250,000 円
健康科学部	心理学科	834,000 円	0 円	270,000 円	その他は教育充実費 270,000 円
	理学療法学科	1,100,000 円	0 円	550,000 円	その他は教育充実費 300,000 円および実験実習料 250,000 円
	心理学科通信教育課程	280,000 円	0 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

◆学生への修学指導

所属学科の教員がクラスアドバイザーとなり、学生に対して日常的に履修、学習上の相談や助言を行っている。

また、各学期の単位修得状況や出席状況などによって一定の基準を設け、必要に応じてクラスアドバイザーによる面談等を実施している（基準は下記に示すとおり。）。クラスアドバイザーは、学生との面談後にその内容を本学のポートフォリオシステム(KT-note)に登録し、情報共有を行うことで、組織的な修学指導体制を整えている。

さらに、新学年が始まる前には、学科ごとに「履修ガイダンス」を実施し、次年度の履修計画を立てる際に必要となる重要な事項を周知している。

※修学指導基準

1　出席状況等による修学指導

1）　1回生前期(4週終了時点)

新入生セミナーの参加状況等から判断される支援対象者

①　クラスアドバイザーおよび学務課担当者による面談などの修学支援

2）　1回生前期(7週終了時点)

1)に該当しない学生のうち、7週目までの出席率が60%を下回る学生

①　クラスアドバイザーによる面談などの修学指導

3）　1回生後期

当該期の第7週目終了時点での出席率が60%を下回る学生

①　クラスアドバイザーによる面談などの修学指導

4）　2回生時

各期第7週目終了時点での出席率が60%未満かつ直前期のGPAが2.0未満の学生

①　クラスアドバイザーによる面談などの修学指導

5）　3回生時

各期第7週目終了時点での出席率が34%未満の学生

①　クラスアドバイザーによる面談などの修学指導

2　単位の修得状況による修学指導

1）　1回生前期終了時

当該期の修得単位が15単位未満(または当該期のGPA1.0未満)の学生

①　クラスアドバイザーによる面談などの修学指導
②　父母宛指導依頼書の発行(学科主任名)

２）　１回生後期終了時
当該期の修得単位が 15 単位未満(または当該期の GPA1.0 未満)の学生
①　クラスアドバイザーによる面談などの修学指導
②　父母宛指導依頼書の発行(学科主任名)

３）　２回生前期終了時
当該期の修得単位が 15 単位未満(または当該期の GPA1.0 未満)の学生
①　クラスアドバイザーによる面談などの修学指導
②　父母宛指導依頼書の発行(学科主任名)

４）　２回生後期終了時
当該期の修得単位が 15 単位未満(または当該期の GPA1.0 未満)の学生
①　クラスアドバイザーによる面談などの修学指導
②　父母宛指導依頼書の発行(学科主任名)

５）　４回生前期
受講登録後の卒業見込み判定における、判定が不可の学生
①　クラスアドバイザーによる面談などの修学指導

６）　４回生後期
前期成績確定後の卒業見込み判定における、判定が不可の学生
①　クラスアドバイザーによる面談などの修学指導

◆障がいのある学生に対する修学支援
・入学試験において、受験生から障がいに関する相談があった場合は、必要に応じて別室受験や座席の指定など、別途対応を行っている。
・在学生における修学支援として、教務委員会にて確認の上、授業時等での配慮を行っている。具体例として、ノートテイクや、授業時における座席の別途指定、授業担当教員への配慮依頼などが挙げられる。

b.進路選択に係る支援に関する取組

（概要）
キャリアガイダンスの実施や、看護学部看護学科、健康科学部理学療法学科、同救急救命学科において、専門職を目指したキャリア教育、キャリアセンターによる就職支援及び国家試験対策を実施している。
他にも教職を目指す学生の支援として、「教職保育職支援室」を設置し、教職や保育職に特化した就職サポートを実施している。採用試験の情報収集と提供、試験対策プログラムの開発と実施を中心に、学生へのきめ細かな指導と援助を行っている。

c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
医務室において、専門の看護師スタッフが日常的な健康相談や学内でのケガや体調不良になった際の応急処置を行っている。また、健康診断、健康診断証明書の発行、学校医による健康相談や抗体検査等の相談など学生の健康保持・増進に関するさまざまな取組を行っている。
学生相談室では、専門のカウンセラーが大学生活で抱える人間関係や進路に関することなどさまざまな悩みの相談に応じている。学生相談室には静かにゆったり過ごすことのできる談話室を設け、気軽に利用できる環境を整えている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：
各学部・研究科でのカリキュラム・授業に関する情報を大学ホームページに掲載している。
https://www.tachibana-u.ac.jp/faculty/index.html

シラバスを本学ウェブサイトに掲載している。
https://portal2.tachibana-u.ac.jp/syllabus/syllabuskougisearch.do

研究活動や、産学公地域連携の活動状況を大学ホームページに掲載している。
https://www.tachibana-u.ac.jp/research_area/index.html

教育研究活動の内容を含んだ大学案内を発行し、オープンキャンパスでの配布、資料請求者への発送を行っている。また、大学案内は大学入試サイトにも掲載している。
https://www.tachibana-u.ac.jp/admission/download/#pamphlets